

## KY09-09 Leg1 クルーズサマリー

2009年11月1日未明から2009年11月5日夜まで、日本とインドネシアの共同研究チームが、スマトラ北西沖の外縁隆起帯の中央付近の深さ300 m から2500 m の海底で、かいようの Sea Beam2100 を用いて海底地形調査を実施した。

調査測線は、4年半前になつしま NT05-02 航海で実施された海底地形調査領域を囲む領域をカバーするように設定された。水深1000 m の深さにおける平均的な水平方向の分解能は約30 m とかなり細かい。約5日間の調査でカバーした領域は約3,500 km<sup>2</sup>に達する。

調査海域の海底は主に、海溝にほぼ平行な、NNW-SSE の走向を持つ、複数のリッジとトラフの連なりで特徴づけられる。この主要な海底地形は、おそらく複数の覆瓦衝上断層 (imbricate thrust faults) の運動によって形成されたと考えられ、一般的に海側傾斜の斜面が急傾斜である。

他に、N-S 方向および NE-SW 方向の走向をもつ、リニアメントも複数認められる。これらの特徴的なリニアメント構造は、先述した最も特徴的な NW-SE 走向のリッジ・トラフ構造を切断しており、もしかしたらインド・オーストラリア・プレートの斜め沈み込みによって生じたのかもしれない。

(文責 : Leg1 首席研究員 平田賢治)